

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成26年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立なかとみ青少年自然の里	所管課	社会教育課
所在地	南巨摩郡身延町平須306	設置年月日 (改築年月日等)	昭和62年6月1日
管理方式	指定管理者(身延町、平成18年4月1日～)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立青少年自然の里設置及び管理条例		
設置目的	自然の中で、集団生活を通じて自律、協同などを体験的に学習する場を提供すること。主催事業の実施を通じ、自然の中でふるさとを愛するたくましい青少年を育成する機会を提供すること。		
主な施設内容 (定員等)	宿泊棟: 宿泊室(28人)×1、宿泊室(24人)×3、リーダー室(2人)×4 食堂(100人)、談話室(15人) キャンプ場: 炊事場、バンガロー2棟、テントサイト13箇所		
主な業務内容	利用の承認に関する業務 施設及び設備器具の維持保全に関する業務 集団生活を体験させる集団宿泊訓練に関する業務 地域における生活文化の経験学習に関する業務 野外観察、自然探求その他の自然に親しませる学習活動に関する業務 野外活動及びレクリエーションに関する業務 その他教育委員会が必要と認める業務		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	身延町立陶芸工房: 定員60人、和紙工房: 定員50人、体育館(505m ²) 山梨県立ゆずりはら少年自然の里: 定員100人: H26利用者数 11,177人 山梨県立愛宕山少年自然の家: 定員150人: H26利用者数 19,065人 山梨県立八ヶ岳少年自然の家: 定員210人: H26利用者数 43,362人
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 利用状況

単位: 人、%

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (目標値)
利用者数	本館宿泊利用	5,702	5,466	6,307	
	キャンプ場宿泊利用	530	257	364	
	日帰り利用	1,262	1,168	980	
	利用者数合計	7,494	6,891	7,651	
	目標値	8,500	8,500	8,000	6,500
	目標値設定の考え方及びその理由	利用者が増加傾向にあった22年度程度まで伸ばすことを目標とした。	過去2年の実績が減少傾向にあることから、過去2年間の平均利用者数を超える事を目標とした。	震災以降の呼びかけに利用再開団体ができた。キャンプ場利用拡大のためBS団体への呼びかけを行う事で昨年を上回る事を目標とした。	施設閉所が決まったことにより利用団体が他の施設利用へ切り替えることが見込まれるため。
	対24年度比	100.0%	92.0%	102.1%	86.7%
	稼働率	43.5%	39.4%	43.2%	

4 指定管理業務の収支状況

単位：円、%

		平成25年度	平成26年度 (計画値)	平成26年度 (実績値)	平成27年度 (計画値)
収 入	施設利用料	0	0	0	0
	指定管理者委託料	29,048,000	29,924,000	29,924,000	30,096,000
	その他	0	0	0	0
	収入合計(A)	29,048,000	29,924,000	29,924,000	30,096,000
支 出	人件費	14,209,587	14,784,000	13,851,071	14,385,000
	県への納付金	0	0	0	0
	管理運営費	13,698,648	15,140,000	14,679,146	15,711,000
	うち外部委託費(B)	6,369,178	6,905,000	6,466,903	7,242,000
支出合計(C)		27,908,235	29,924,000	28,530,217	30,096,000
収支差額(A-C)		1,139,765	0	1,393,783	0
外部委託比率(B÷C)		22.8%	23.1%	22.7%	24.1%
利用者一人当たりの経費		4,215.4	3,741.0	3,911.1	4,630.2

5 利用者満足度

実施方法等	実施時期：平成26年4月～27年3月、実施方法：県立なかとみ青少年自然の里利用団体へのアンケート、回答数：58団体
-------	-----------------------------------------------------------

単位：%

調査項目	満足	やや満足	やや不満 ・不満	未記入
利用料金	93.0%	0.0%	5.0%	2.0%
申し込み方法	91.0%	0.0%	7.0%	2.0%
宿泊棟備品・設備	79.0%	0.0%	5.0%	16.0%
活動内容	86.0%	7.0%	2.0%	5.0%
食堂の食事について	72.0%	17.0%	4.0%	7.0%
施設全般の満足度	91.0%	7.0%	0.0%	2.0%

利用者の意見	消費税で値段が細かく計算しにくい。県内団体の中に県外者がいる場合は、県内料金にして欲しい。 プログラム相談は、直接施設に行かなくても、電話・インターネットでのやりとりを可能としてほしい。 夜間飲料水用ポットを貸し出して欲しい。トイレにタオルがあると良い。リーダー室にゴミ箱があると良い。 男子小便器を匂いが上がるのでタンク式からボタン式に変更してほしい。 スタッフのサポートがよい。 もう少し暖かいものが食べたかった。県内施設では一番おいしい。量が足りない。小学生には量が多い。 給湯室のようなものがあると便利である。
利用者の意見への対応	消費税率変更に伴う金額設定なので理解をお願いしている。 県外団体の利用でも県内者は県内料金で対応している。 申込の際にプログラム相談来所の説明を行っている。また、他団体との施設利用の調整や施設理解の必要なため来所の説明を行っている。 ポットによる供給は行っておりプログラム相談時に説明を行っている。 平成25年度よりタオルは衛生面を考え設置をやめ施設見学等で説明している。 小便器の水洗方式の変更は難しい為。利用者滞在中の換気扇可動で匂い対応を行った。

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	施設利用者が安全かつ快適に利用できるように常に点検を行い、必要に応じて修繕等を行った。食堂業務については、アレルギー対応を含め、利用者の要望に可能な限り応じるよう努めた。	維持管理については、きれいに管理され、利用者に気持ちよい場所を提供している。業務使用書、業務計画どおり適正に実施されている。
運営業務	日常では体験できない自然体験・生活体験・交流体験・創造体験・郷土食体験等を行えるよう、利用者への指導や支援及び食事の提供を行った。	地元の特徴や人材を生かした主催事業を行うなど工夫や努力がみられる。
自主事業	通常受け入れの団体という枠をはずし、家族参加の事業を行う事により施設の周知と利用の拡大を図った。4月中旬:野草の天ぶらづくりとそば打ち(17名)11月上旬:本栖湖一周ハイキング(中止)12月上旬:キャンドルとほうとうづくり(23名)	利用者を柔軟に受け入れることにより利用拡大を図ったことは評価できる。天候に左右される事業もあり中止となったハイキングがあるが、今後も魅力ある事業を展開し、利用者の増加を図る必要がある。
利用状況	利用団体の数は、昨年度より3団体の減、宿泊棟1団体の増で、延べ数841人増。キャンプ場2団体の増で、延べ107人増。日帰り6団体減で、延べ188人減。団体数は減数となったが、連泊利用が増えたため延べ人数は760人の増となった。	利用団体数が減少傾向であるが、連泊利用者の増加により全体の利用者が増えたことは評価できる。団体の利用や日帰り利用の改善を図りたい。
収支状況	平成25年2月末に指導担当退職に伴う新規採用職員との金額差。また、経年劣化による破損箇所が増えたため修繕費が大きく伸びたが、概ね計画通り執行することができた。	指導担当の交代や修繕等に費用が多くかかったが、経費節減効果により概ね計画どおりの執行となった。
利用者満足度	大型バス駐車場整備後もし、施設までのアクセスについて、道路が狭い等の改善を望む声はあったが、次回も利用したいと言った意見も多数あり、今後も気持ちよく利用頂けるよう、全職員で努力していく。	施設までのアクセスがやや困難なことはやむを得ないが、利用者へ事前説明するなどして理解を得ている。次回の利用したいと意見が多く、施設に対する満足度は高い。
運営目標の達成状況	H26 利用者数目標値 8,000人、実績7,651人 H26 主催事業参加者数目標値 460人、実績250人 震災以降の呼び掛けに利用再開団体ができた事や、連泊の団体が増えたことから目標値に近い利用者となった。	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	協定書、仕様書に基づき概ね適正な運営・管理が行われていた。利用団体数が減少したが、連泊の利用者が増加したことにより、利用者数目標値の8,000人に近づくことができた。スタッフの支援がよく、施設がきれいに管理されていて、利用者満足度調査でも高い数値を示している。利用団体や日帰り利用が減少しているため、県内向けに施設や主催事業のPR活動を積極的に行い利用者増に努める。また、閑散期の利用者増に向けた運営が必要である。	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	主催事業については、2年連続で本栖湖一周が雨天中止となった。雨天時の予備日等も検討したい。また、チラシ配付先についても検討を行う。ホームページの活用や閑散期の事業検討を行い利用者増加に努める。	

7 管理体制(組織図)

平成26年4月1日現在

